



「何をめざして生きていくか」

作家 椎名 誠

皆さん、こんにちは。今日の僕の講演は、「何を目指して生きていくか」という随分大上段に構えた演題です。今の日本は、世の中全体に社会的な疲弊感があり、いろいろな立場の人が、何を指して生きていけばいいのだろうかと迷っているような気がしきりにします。最近、僕自身もそんな気が重積してきていて、今まであまり書いたことのないテーマで、「ぼくがいま、死について思うこと」(新潮社)という本を書きました。

3年ぐらい前の同じ頃に、編集者と主治医の両方に、「椎名さんは、死について考えたことがないんでしょう」と、言われました。言われてみると、僕はありがたいことにずっと健康で来て、病気はまずあまりしません。若い頃に大きな事故で、それこそもうちょっとで死ぬところでしたが、世界中で結構やばいことをいろいろ体験してきた割には無事に生き続けてこられたので、自分の死をあまり深刻に考えていませんでした。

ところが、自分の周辺で、肉親はもちろん、友人たちがかなり亡くなってきました。特にこたえたのは、60歳を過ぎてから、僕より若い仲間たちが病気で死ぬケースがどんどん増えてきたことです。葬式に出るたびに、家族の死とは別の深い思いにとらわれました。同時に、いろいろな葬式に出る中で、日本の葬式は何か変じゃないかなと思いました。多くは斎場でやる葬式ですが、ものすごくシステムチックです。一番違和感を覚えたのは、もろにプロだとわかる女性の悲しげなナレーションです。すべての葬儀にその人のナレーションが流れると思うと、怒りを感じました。声

は悲しげですが、その中には本当の悲しみはありません。

僕は随分あちこちの国へ行ったので、突然出会った人の死や、葬儀のことを次々と思い出していきました。東南アジアの貧しい国、例えば、ラオスとかカンボジア辺りでは、葬儀を家の外でやるので、外国人でもそれを見ることができます。言葉がわからなくても、通りすがりの者にもその悲しみが伝わってきます。それらを思い出していくうちに、日本のおためごかしな作られた葬儀は、結婚式に似ていると思いました。

今、原宿辺りを歩くと、表参道を100メートル行く間に教会が五つか六つあります。本当の教会は一つで、あとは偽物の教会です。中に入ると椅子があって、スタンドグラスがあって、ボタンを押すと十字架が七色に輝いたりするディズニールみたいな結婚式場です。だんだん年を取ってくると、過去の記憶が積み重なって、どんどん忘れていきますが、体験が増えてくると、事の真贋がだんだん見えてくるという現象があります。僕が、「死を考えろ」と言われたときに、葬式と結婚式が似ていると考えたことなど、昔からいろいろ考えていたことに気が付きました。

この間、久しぶりに東京駅から山手線で原宿まで電車に乗りました。電車の中の風景を見ていて、予想はしていましたが、「ああ、やっぱりそうなんだ」と思うことがありました。それはスマホです。みんながやっていることに気が付きました。やらない人間から見ると、あれは変です。前に電車に乗ったときは、みんな携帯のメールをやって

いたと思いますが、半年ぐらいであっという間にスマホに替わりました。多分、日本中がそうではないかと思います。

これはいったい何だろうか。うまく言えません。日本人論でいくと、誰も彼もがあまり深く考えずに突き動かされてしまう時代になっていることを感じます。

新しい便利なものが作られると、ものすごい宣伝攻勢が始まり、あっという間にみんなが持つようになります。僕はしばらく抵抗して、携帯電話を持たないでいましたが、抵抗している者はなかなかつかったです。急ぎのときに公衆電話がありません。今でも思い出しますが、あと5分か6分ぐらいのうちに、「イエス」か「ノー」の返事を事務所にしないと大変なことになるところがありました。結局、通りすがりの親切なおばちゃんに携帯電話を貸してもらって返事をしました。ただ、貸してもらっておいて言うのも何ですが、変な人が近寄ってきて、「携帯電話を貸してくれ」と言っても貸してはいけません。

そういうことがあったので、いざというときに困るから、ついに白旗を掲げて携帯電話を買いに行きました。携帯電話は本人が行かないといういろいろ面倒臭いので、初めて電話ショップのカウンターに座りました。あんちゃんが出てきて若い人特有のマニュアル用語で何か言いますが、何を言っているのか全然わかりませんでした。5分ぐらいずっと話してから、「ちょっと待ってください。僕みたいな老人にもわかるような言葉でもう少しゆっくり説明してください」と言いました。そうしたら、その人も商売ですから、もう少しゆっくり話してくれましたが、何のことはない、「初めてお買いになるのならば、これは36機能付いていて、最新鋭でお買い得です」というセールストークでした。

僕は、カメラ付きの多機能物体ではなくて電話を買いに行ったので、「電話機をください」と言いました。いろいろ聞いていったら、最も機能の少ないシンプルなものがありました。一番安いものです。何も付いていませんが、万歩計が付いて

います。頼んでいないのにこういうものを付けられると、「もっと歩きなさい」と言われているみたいで、頭に来ます。多機能にしていくと、売るほうがもうかります。でも、多機能文化というのは日本だけです。

例えば、トイレがそうです。今、日本の温水シャワートイレの普及率は6割を超えて7割近くなっています。皆さんがよく勘違いをしますが、温水シャワートイレは欧米にはありません。もちろん、インドにも、韓国にも、ロシアにもありません。これは日本だけの、新しい和式トイレです。

僕の孫はアメリカ生まれのアメリカ育ちです。その子が4歳のときに日本に来て、僕のうちに泊まっていったのですが、僕のうちのシャワートイレを怖がって、最初は入れませんでした。アメリカの彼のアパートの便所は、いわゆる昔の洋式便所です。ただ便座の開閉があって、終わったら鎖を引っ張ると水が流れておしまいという、非常にシンプルな便所です。アメリカは非常にコンサバな国で、日本みたいにすぐに変わりません。あえて保守的です。

電気を抜いてしまえばいいと思い、プラグを抜いたら、今度は水が流れなくなってしまいました。僕は、そのとき初めて取り扱い説明書を読み、今まで知らなかったボタンをいろいろ発見しました。リラクゼーション・ミュージック・システムというものがあって、ボタンを押すと音楽が流れます。シャンソン、ラテン、クラシック、ロックなど、六つのジャンルを選べます。笑ってしまうのは、「ししおどし」というのがあります。自宅のトイレに入って、コーンという音を聞いて世の無常を知るなんて、漫画トイレとしか言いようがありません。無駄で無意味です。

これの発端は、公共トイレに付いている排泄音を紛らわすための川のせせらぎ音です。でも、そういうシステムそのものが本当に日本だけで、男の便所にまで付いています。男が、自分の排泄音が恥ずかしいから、録音の川のせせらぎ音を流すというのも、考えてみれば変態トイレと言っているんです。

日本で、今、世界に誇れるものの一つは、トイレかもしれないと思っています。日本は、公衆便所が世界で一番充実しています。そこらの公園に普通にトイレがあって、都市ではほとんど水洗です。かなり辺鄙な田舎に行っても水洗便所で、きちんと管理されています。シャワートイレを付けている公衆便所もあります。これは、びっくり仰天物です。あんなきれいな多機能トイレがインドのカルカッタ辺りにあったとしたら、数千人が取り囲んで争奪戦が始まるでしょう。誰かがそこに住み着いてしまいます。それほど高価で異様なものです。

今、トイレの問題で悩んでいるのは途上国です。明日、自分が行くトイレがはっきり決まっていない人々が、世界には25億人から28億人いると言われています。自分の家にトイレはありません。公衆便所也没有。インドは、田舎に行くほとんどがそうです。中国には、「公廁」と書く有料トイレがありますが、ほとんど掃除してないので、鼻が何十曲がりするぐらい、凄絶な、空前絶後の、よほど度胸がなければ入れないようなトイレしかありません。臭いから、大体そこらでしてしまいます。

アメリカも、外へ出て問題が多いのはトイレです。地下鉄のトイレはだいぶよくなりましたが、まだまだデンジャラスゾーンで、入っていくのに決死の覚悟が要ります。まず、誰かがいます。ジャンキー、ホモ関係、金取り関係です。無事に出てこられる保証がありません。そういうのが公衆便所です。インド辺りに行くと、道からちょっと奥まったところに、日本で言うコンクリートブロックが二つ置いてあるところが結構あります。これが公衆便所です。囲いは何もありません。オールオープンです。そして、そこにはスカベンジャーという仕事をしている人がいます。これは、インドのあしきカースト制度と関係があります。スカベンジャーは、露天便所の便を缶詰の缶と手でかき集める仕事で、7万人から25万人いると言われています。日本では、したいときにどこでも快適なトイレで大・小便ができるということだけで

も、われわれは相当ストレスのない国に生きていると考えていいです。

日本が誇れるもう一つは、僕は、水だと思っています。どの家にもみんな水道があるという国は、世界でも珍しいです。狭い国ですから、早いうちに北海道から沖縄までインフラ整備がきちんと行き届きました。そういうものがありながら、そこら中に自動販売機があり、コンビニがあり、100円あればエビアンが買えます。自動販売機がこんなにある国は、そうありません。しかも、たくさんメーカーの自動販売機が並んでいます。ドイツ人が来ると、「なぜこんなに並んでいるんだ。電気が無駄ではないか」と言います。確かに、日本はエネルギー自給率が先進国で最下位なのに、平気で電気を使っている国です。しかも、各家庭でただの水が飲めるのに、有料の水を買っているというのは、よく考えると、私たちは相当な無思考浪費国だと思います。

日本には3万5千本の川があります。一つの国が持っている単位の川としては、最大の密度です。ただ、狭い国なので、1本の川の長さが世界の川と比べて短く、一番長いのが信濃川で367キロメートルです。世界の川で一番長いのはナイル川で、6,650キロメートルあります。次がアマゾン川で、6,516キロメートルです。アマゾン川上流まで行きましたが、アマゾン川の水は砂の含有量がものすごく、コップ1杯で5ミリぐらいの砂が沈殿するほど入っています。ですから、取ったばかりの水は飲めません。

日本の川は短く、日本の真ん中を走っている高い山脈を分水嶺にして、太平洋側と日本海側に流れているので、非常に急激な流れです。岩石を通過しているのでミネラル豊富な水で、日本の川の水は、ダムを造ったりしなければ、中流域でも下流域でも飲めるはず。ところが、早いうちから上流にダムを造って、必要のない護岸工事も随分していますから、コンクリート汚染されています。川はごみ捨て場になって、廃棄物がどんどん捨てられました。

一番いけないのは工場廃水です。富山県を流れ

ている神通川は、イタイイタイ病を起こしたカドミウム汚染の川です。新潟水俣病を起こした新潟県の阿賀野川は、鉛と水銀を流したすさまじい殺しの川です。川が豊かすぎるが故に、その貴重さがわからず、そういうものを作ってしまったという不幸が日本にはあります。

メコン川は 4,200 キロメートルありますが、源流はチベットで、チベットから雲南省に出て、タイ、ラオス、ミャンマー、カンボジア、ベトナムと流れてきます。いろいろな国々を経由してくる国際河川です。国際河川が流れている流域の人たちは、川に気を使います。日本みたいにカドミウムや鉛を流してしまったら、下流の国と戦争になります。日本の場合、そういう意味では、ストレスのない川が 3 万 5 千本も流れています。こんなに恵まれている国はありません。しかも、川が干上がることはめったにありません。梅雨と台風が、日本の川に水を供給し、循環させてくれます。

このように水に恵まれている国は、世界にあまりありません。僕の知っているデータで挙げると、日本とノルウェー、それから、カナダとブラジルです。ブラジルは、アマゾン川の上流部分に行くと数え切れないくらいの支流が流れています。その年によって本数が違いますが、長さ 1 千キロぐらいの支流が、1 千本から 2 千本流れているので、飲み水には苦労していません。

その他の国は水飢饉です。特に中国は水戦争を起こしかねません。今、チベットとウイグルをどんどん侵略していますが、それは、チベットが世界の六大河川の水源地だからです。パイプラインを造って、氷河から解けて流れてくる豊富な水を黄河や揚子江に取水する工事をしています。

今、黄河はほとんど死んでいます。上流で灌漑用水を使い過ぎてしまったことと、大量のごみです。中国人のあの中華思想というのは、僕はいまだにわかりません。例えば、日本の銀座のような王府井（ワンフーチン）を歩いている普通の人が、マクドナルドでハンバーガーを買うとします。そうすると、歩きながら包み紙をどんどん捨てて

いてしまいます。自分が去っていったあとは全部ごみ箱という考え方です。とにかく道はごみ捨て場、川はもっと大きな粗大ごみ捨て場になっています。

前に、黄河の中流域を旅していたとき、上流のほうから半分壊れたような家が流れてきました。僕はびっくりして、通訳に「うちが流れてきましたよ」と言うと、「あれは捨てられた家です。ブルドーザーで押して捨てます」と言っていました。ビーバーダムではありませんが、黄河はごみ堆積物で人工のダムができて、海まで流れてこなくなってしまうことが年に 2、3 回あります。

山のほうで水をたくさんためると、シルトという黄色い泥が出てきます。黄河の基はシルトで、揚子江にもシルトが出てきます。そして、地殻から塩分が上がってきて、黄色い泥水の塩水になってしまい、飲み水にも何もなりません。だから、大きなダムを造ってはいけません。中国では、山門峡ダム、三峡ダムという大きなダムを造りましたが、いずれも失敗でした。

今、中国人は水が欲しくて、矛先をあちこちに向けています。先ほど言ったようにチベットに向けていますが、日本にも向けています。既に北海道と東北辺りでは、山林が非常に買われています。今、日本では林業が成り立っていないので、山の持ち主が売りたいがっていて、それを買いに来る業者がいっぱいいます。日本の企業と中国が合弁で山林開発株式会社みたいなものを作って、使っていない山を買ってあさっています。それこそ一山いくらか安く買えるので、まだ実態がつかめていません。というのは、日本では、法律上、外国の企業でも日本の土地を自由に買えます。そんなばかな法律があるのは日本だけです。よその国では、せいぜい 100 年間貸与するぐらいで、買うことはできません。自分の土地をよその国に売るなんて、日本はばかな国です。議員立法でも何でもいから、早く法律にしないとまずいです。

中国が日本の山林を買うのは、山林の木を切るためではありません。日本百名水と言いますが、日本はどこを掘っても必ずいい地層があり、ミネ

ラルウオーターがどんどん出てきます。これを取水して、タンクローリーで港へ運び、タンカーで中国本土に持って行って、売られています。

こういう話をすると切りがありませんが、日本の誇れるものであり、しかし、問題であるものということで、最後にもう一つ付け加えておきます。

もう一つは、案外気が付きませんが、日本の夜の安全です。僕の家は中野区にあります。渋谷区と50メートルも離れていません。100メートル離れると新宿区という、国境紛争地帯みたいなところ。物書きですから、夜の2時、3時まで原稿を書いていることがあるので、真夜中の2時、丑三つ時に、若い女性が1人で携帯電話で話をしながら坂道を歩いているのに気が付くことがあります。真夜中に、若い娘がそんなふう歩いているのは日本だけです。

先進国は先進国で厳しいし、途上国は途上国で厳しいです。大体、そんな時間に1人で歩きません。あまりにも危険すぎます。銀座辺りでは、夜11時過ぎぐらいに、その辺のクラブから酔ったスーツ姿のおやじが5、6人で歩いてくるのをよく見かけます。あそこを外国人と一緒に歩いていると、「ガードマンはどの人だ」と必ず聞かれます。でも、日本では、酒場から帰るときにガードマンは雇いません。ところが、外国人の目から見ると一番危険な状態です。酔っ払って警戒心なしで、お金や身分証明書、健康保険証、社員証などが入っているかばんをぶらぶらさせながら歩いている人は、ひったくりのいい的。5人まとめてひったくられます。3人いようが、4人いようが、平気で襲ってくるのが外国です。今だけかもしれませんが、日本みたいに、若い娘が1人でハンドバッグをぶら提げて携帯電話をかけながら歩いている、安全な夜というのは大事だとい

ことです。

最後に、この演題の答えとなるかどうかわかりませんが、一つ言うとしたら、これからは一人一人が本気でものごとを考えていかなければならないときになってきます。みんながスマホをやっている風景を見て、僕はそう思いました。あれは格好悪いものですが、本人は格好悪さに気が付いていません。

もう一つ、電車の中で平気で居眠りをしている人がいます。あれは不用心です。しかも、自分の荷物が網棚に載っていたりします。ニューヨークでは、膝の上で持っていたりもかっぱられる場合があります。外国では、居眠りなんかしている人は誰もいません。みんな、緊張感を持って生きています。

電車の中で化粧をしている人や、ものを食べている人もいます。自分の家や職場、学校では身ぎれいに格好よくしていいたいけど、その中間という、不特定多数の人がいるところでは、全く誰もいないのと同じだと認識しているということです。つまり、緊張感がないというか、コミュニケーションツールがありません。この辺は、今の社会状況に鑑みた日本人だけのぬるい精神感覚かもしれません。ぬるいのは、世界を知らないからです。もう少し緊張しなければいけないと、僕は思います。

もう少し言えば、書物のうえだけでも、もっとたくさんの世界を知っておくことが、命にもかかわるし、自分の精神の格好よさにもつながっていきます。それが、これからの日本人に求められる大事なものであり、小さなときから、嫌でも遂行しなければならぬ時代になっていくと思います。

ちょうど1時間になりましたので、これで終わります。ありがとうございました。